

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2020年10月27日第3号(通巻
8号) オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通 101-453
Tel/Fax: 072-737-9454.
mail:olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
www.facebook.com/oribunokai

パレスチナの大義を捨てる正常化に反対する



スーダンでの抗議行動

今号の内容

スーダンとイスラエルの国交正常化について	1
自治政府はイスラエルとの共同を再開した	3
UAWCの9月イスラエルによる侵害のレポート	4
オリーブ収穫キャンペーンが終わる	7
パレスチナの文化—「[GREENfly]」少女・叫び	8
パレスチナ音楽の歴史 1	9
パレスチナの食べ物	10

スーダンとイスラエルの国交正常化について



ネタニヤフ・イスラエル首相

スーダンが、UAE、バハレーンに続いて、3番目のイスラエルとの国交正常化を行った国となった。スーダン政府の当局者は、二国解決方式を支持するが、スーダンにとってもっとも大事なのは、スーダンの国益であると述べて、その行為を正当化した。

スーダンの当時のバシール政権は、湾岸戦争時にはイラクのサダムフセインを支持し、ウサマビンラディンの国際テロ組織、アルカイダを支援したとして、1993年には、米国にテロ支援国家と指定され、以降経済制裁が続いていた。

今回の交渉では、このテロ支援国家の指定の解除と経済制裁の撤回をスーダンは条件とした。

また、2016年1月2日に、サウジアラビアがイスラム教シーア派の有力指導者を処刑したことでサウジアラビアとイランとの関係が急速に悪化したとき、サウジアラビアは、イランと国交を断絶し、スーダンもこれに続いて、イランとの国交を断絶した。サウジを中心とした反イラン連合の一部として存在していた。今回のイスラエルのとの正常化もその延長上にあり、イスラエルを含む、反イラン連合の一部として、イスラエルとも共同をしていたといえる。

スーダンは、左派民族主義政権のヌメイリ政権の時



アブドルファッタハ・ブルハン統治評議会時代に、イスラム法を導入することを決定して、それに反発する非イスラムの南部スーダンがスーダン解放戦線を結成し、内乱がはじまり、89年にクーデターで政権を握ったバシール政権は、イスラム化を推進し、国内での対立が強まり、南部の非イスラム教徒の SPLM (スーダン人民解放運動) が結成され、内戦となったが、バシール政権は、SPLM と連立を組み、南部スーダンで、独立か連合かの国民投票が行われ、南部スーダンは独立した。

そのバシール政権が軍のクーデターと民主化運動に倒され、現在の政権が作られている。経済的には、スーダン南部で石油が採掘されているが、経済制裁で米国の企業が撤退した後、中国資本、マレーシア資本などの石油採掘を継続し、中国資本が、スーダン経済の中で力を持つようになってきているが、南部スーダンが独立したあとは、北部は、経済的に困難になっている。

そのために、米国の経済制裁が解除されることが、経済的に必要とされていたし、パレスチナの大儀どころではない家庭の事情があり、それを米国とイスラエルに足元を見られ、イスラエルとの国交正常化を求められた。

どのアラブ諸国も、2 国家解決方式を支持するが、自

オリーブの会通信 第3号(通巻9号)

国の利益が第一であるということは、共通している。一つは、対イランであり、もう一つは、経済関係であり、アラブ諸国は、アラブの大儀を捨て去ってしまっている。パレスチナはお題目でしかなくなっている。

トランプ政権は、こうしたアラブ側の状況を前提に、経済的利益、軍事支援など、それぞれの国の一国的な利益をくすぐることで、イスラエルとの国交正常化を図った。昨年行われた、経済会議は、その意図が明確であり、米国、イスラエルは、ここにパレスチナ自治政府まで引き入れて、中東和平の形をつくらうとしている。

今月28日、米国の国連特使が、アラブ平和イニシアチブは必要がなくなったと発言したが、まさにその通りの状況になりつつある。次に名前が挙がっているのは、カタールである。さらに、レバノンとも国境協議を開始している。

イスラエルは、米国、大統領選挙でトランプの敗北の可能性を含めて、早急に正常化を進めようとしている。パレスチナ問題は、もはやアラブの大儀ではなくなった。

占領地では、実質的な併合が続いている。入植地での住宅建設が増大し、様々な口実で、パレスチナ人の住居や財産が破壊され、土地の収奪が行われている。

パレスチナ内部では、民族統一指導部の形成が目指されているが、まだ、その姿が見えてこない。パレスチナ自治政府を、米国とイスラエルの策謀の中にすすめさせず、人民の抵抗闘争で状況を切り開いていくことが必要とされている。

そして、国際連帯の強化である。現在までのところ、BDS運動が効果的にたたかわれ、イスラエルに打撃を与えている。各国でのBDS運動を強化発展させていくことが必要とされている。

スーダン共産党：イスラエルとの正常化の拒否する



2020年10月24日(ハルツーム-スーダン共産党は、イスラエルの占領国との正常化の拒絶と、民族解放の力との連帯を新たにした。

党は中央委員会の会合後の声明で、「我々は世紀の取引のアメリカの草案を拒否し、イスラエルとの正常化を強く非難し、イスラエルの航空会社の通過を許可することを含む措置を中止しキャンセルするよう政府に要求する。

党はスーダン政府に対し、「パレスチナ人が彼らの目的に対する正当な解決策を得るまで、イスラエル大統領と締結した合意を開示し、取り消す。そしてイスラエルの攻撃から地域の人々の安全を達成する」よう求めた。



自治政府はイスラエルとの共同を再開した



パレスチナ自治政府アッバース大統領

。米国大統領選挙でトランプの敗北が明確になると、11月18日にパレスチナ自治政府は、イスラエル政府との共同の再開を打ち出した。トランプ政権の徹底したイスラエル寄りの政策が終わり、旧来の米国の政策が復活することを期待してのことと思われる。トランプ政権とネタニヤフは、元に戻せないように手を打ってきているし、トランプ政権の政策が歴代米国政権と違っているわけではなく、シオニストの立場を支援することに変わりはない。違っていたのは、トランプがパレスチナの反発を恐れず、パレスチナの大義よりも、パレスチナを含むアラブ諸国が、経済と自国の安全を第一としていることを見抜いて、イスラエルとアラブの正常化を進めていたし、パレスチナに対しても、経済的な利益で、パレスチナの大義を捨てさせようとした。その証拠に、バイデンは、大統領になってもエルサレムの米国大使館は、そのままにするといっている。

果たして、バイデン政権が、そうした流れを覆すかは、不明であり、これまでのイスラエルとアラブのバランスということで動くかどうかは不明である。

二国間解決方式ということでは、トランプも二国解決方式であることは変わりがないが、イスラエルをより有利にする仕方で、実質的には、パレスチナの主権を認めないものである。

しかし、それは、歴代米国政権が進めてきた、オスロ合意を見てもわかるように、パレスチナ自治は、パレスチナ人をパレスチナ人に支配させる以上のものではな

く、イスラエルの有利な支配体制を作ることでしかなかった。

オスロ合意での暫定自治も、パレスチナの主権を確立するものではなかった。パレスチナを治安上、経済上、イスラエルの従属下に置くものでしかなかった。それがトランプ政権のもとであろうと、それ以外の米国政権であろうと変わりはない。

したがって、ファタハ以外のパレスチナ組織が反対するのは、当然のことであった。そして、イスラエルと自治政府の共同の再開は、パレスチナ民族内部での統一の機運を失わせるものになる。これは、パレスチナの分裂状態を続けさせることになり、パレスチナ立場を弱めるものでしかない。

トランプ政権下で、強まった統一の機運とパレスチナ自身の闘いによって切り開いていくという流れは、この自治政府の動きによって、水に流されることとなる。

11月29日イスラエルとの共同の復活の眼目であるパレスチナの税収のパレスチナへの移転が、獄中者、殉教者への給付金を除くことにこれまで反対していた自治政府が同意した。

西岸とガザストリップのパレスチナ農業部門に対するイスラエルの組織的攻撃



UAWC の月間イスラエルの侵害レポート
2020年9月

西岸全域の UAWC の農業委員会とガザストリップは、9月の間に西岸のパレスチナ農業部門に対するイスラエルの占領軍と入植者の攻撃を監視しました。このレポートは、イスラエルのブルドーザーがパレスチナの農業施設を破壊し、さらに 600 本以上の木を根こそぎにしたことを記録しています。

このレポートは、13 以上の農業施設の解体作業と軍事通知、集水用の 2 つの井戸の解体、1400 以上の樹木の根こそぎ、130 以上の砂丘の破壊と押収、土地の押収の継続的な拡大と入植地の拡大をドキュメントしています。

農業施設の解体

占領軍がヤルザ / ヨルダン渓谷の家を破壊する

・2020年9月2日、占領軍はヘブロンのマサファーヤッタのジェブナ地区にある 300 平方メートルのバラックを破壊しました。

2020年9月2日、占領軍は、ヘブロンのあるバニナイムの町の西にあるピリンの村の 50 立方メートルの井戸を破壊しました。

2020年9月7日、イスラエルの占領当局は、ベツレヘムの東にあるキサン村の家畜用の 2 つのバラックに対して軍事解体通知を出しました。

キサン村は激しい入植攻撃を受け、ベツレヘムで最大の入植プロジェクトを目撃しています。このプロジェクト

は約 3,500 の砂丘を占領すると脅迫しています。

2020年9月14日、ヘブロン県の南、ヤッタの東にあるトワナの村で、トタンで作られた 80 平方メートルの羊小屋の軍による解体通知が配信されました。

2020年9月17日、イスラエルの占領軍は、ヘブロン県の北、ハルフルの北にあるキルベトアルジュムジュマを襲撃し、レンガとトタンで作られた 70 平方メートルの農業小屋と 70 立方メートルの農業小屋と井戸を破壊しました。

2020年9月12日、イスラエルの占領軍は、西岸北部のトゥバスの東、ヨルダン渓谷北部のキルベトヤルザを襲撃しました。占領当局は、2 つの農業施設 (2 つのバラック) の壁に 2 つの解体通知を掲示しました。

2020年9月14日、イスラエルの占領軍は、ニリンの町の西側、ラマラ県の西側にあるバブシェハブの地域を襲撃し、レンガとセメントで作られた保持壁の破壊を進めました、1ドノムと 200 平方メートルの農地を囲んでいた。

2020年9月24日、イスラエル占領のブルドーザーは、許可なしに建設したという名目で、ベツレヘムの東にあるキサン村で家畜を飼育するための 5 つのバラックを破壊しました。

2020年9月20日、イスラエルの占領軍は、西岸北部のジェリコの北にあるアルジフトリックの村を襲撃し、ト

タンで作られた100平方メートルのバラックを破壊しました。このバラックの一部は10人家族を収容するために使用され、それらのほとんどは子供です。他の部分は納屋として使用されます。

土地と樹木への攻撃

ザヌータ / ヘブロン の農地の荒廃

2020年9月4日、イスラエル占領軍は、カフルアルディク の町のデイルサマーン地区から6つの砂丘と75平方メートル、および17の砂丘と915平方を押し取る決定を発表しました。

Salfit の西にある DeirBallut の町にある KhirbetDeirQala の土地のメートル。押し取る「レシエム」と「ベデュエル」の入植地のためのものです。

・2020年9月7日、入植者はTurmusA'yya 平原から45本のオリーブの木を根こそぎ盗みました。

2020年9月7日、イスラエルの占領軍は、ハリス村の土地に設立された「キリヤットネタフィム」の入植地を拡大するために、サルフィットの北にあるハリスの村にあるハレットホデイダの地域を襲撃し始めました。サルフィット県の村。荒廃した土地の面積は約42ドノムで、オリーブの木が植えられています。

2020年9月8日、占領軍はザヌータ / ヘブロン の農地を破壊しました。

・2020年9月9日、イスラエルの占領軍は、ラマラ県の北西にあるラスカルカル村の東にあるラスアルザイトウの農業地域を襲撃しました。ブルドーザーは22本の多年生のオリーブの木を根こそぎにしました。イスラエルの民間企業からの多くの労働者が、約44の砂丘の面積を持つ土地の周りにとげのあるワイヤーフェンスを建て始めました；Cに分類された地域にある、上記の村の土地の一部に建設された「タルモン」入植地複合施設を接続する入植地未舗装道路を建設することを目的としています。

・2020年9月13日、ヨルダン渓谷のアルファリシヤにあるキルベトアフマールの土地の入植者による収奪、および土地の囲い込みと植栽が続いています。

2020年9月14日、イスラエルの占領当局は、ヘブロン

南部の市民に、自分たちの土地の3000平方メートルの領域を占領するという軍事的決定を下しました。決定によると、押し取るは軍事的のためです。

・2020年9月17日、ブルドーザーを伴って、イスラエルの占領軍の保護下にある入植者のグループが、サルフィットの西にあるビディアの町を襲撃しました。入植者は、KhalletAlayyan と AbuSharukh 地域の市民の土地を攻撃し、生産的な木が植えられた約16の砂丘を破壊し、農場全体を破壊し、約950の木を根こそぎにし、キャラバンを破壊し、フェンスと保持を強打しました。

・2020年9月18日、「Pay the Price」グループの入植者グループが、「Rahlim」入植地からナブルスの南東に向けて出発し、同じくナブルスの南東にあるアルサウイヤの町の北部を攻撃しました。、前述の入植地の近くで、1歳から50歳までの約100本のオリーブの木を切り落とします。

・2020年9月19日、占領軍はサルフィット県のビディアの町でハレットハッサンを多数のブルドーザーで襲撃し、さまざまなオリーブの木、ブドウの木、桃、レモン、アーモンドの木を含む200本の生産性の高い木を根こそぎにしました。

・2020年9月24日、占領軍は、ヨルダン渓谷北部のキルベトガザル地域の市民が所有する1,639平方メートルの土地を没収しようとする軍事命令を出しました。これは、イスラエルの入植地と軍事キャンプを養う地域です。

・2020年9月25日、ベツレヘムのアルカデル村の土地に建てられた「ネベダニエル」入植地からのイスラエル人入植者が、アルカデルの南西にあるワディアルシャミで50本の多年生のオリーブの木を燃やしました。

2020年9月30日、イスラエルの占領軍は、ベツレヘムの西にあるフーサン村の土地を放牧した後、数十本の多年生のオリーブの木を根こそぎにし、トレリスと保持壁を破壊しました。

農民、家畜、財産への攻撃

・2020年9月26日、「Pay the Price」グループの入植者グループが、ナブルスの南東にある「Ish Kodash」入植地前哨基地を離れ、クスラの町の東にあるラスアルナ

オリーブの会通信 第3号(通巻9号)

クル地域を攻撃しました。前述の入植地前哨基地。入植者は岩と鋭利な道具で2つの養殖場を攻撃し、鋭利な道具を使ってその地域に給水する水タンクに穴を開けました。さらに、市民が集まって火を消す前に、彼らは電気パネル、水と冷却ポンプを損傷し、村の住民の土地に火を放ち、トラクターと車を損傷しました。

ガザの漁師と農民への攻撃

・2020年9月2日、占領軍は、シェジャイヤの東にある国境障壁に隣接する農民の土地の一部を破壊しました。

2020年9月5日、ラファ県の東、アルシュカ村の東にあるガザ回廊バリア内に駐留していたイスラエルの占領軍兵士が、隣接する地域の羊飼いに発砲しました。怪我は報告されていません。

2020年9月6日、カーンユニスの東にあるガザ回廊バリア内に駐留していたイスラエルの占領軍が、前述のバリアの反対側にあるアルファカリ村の東にある農地に発砲しました。怪我は報告されていません。

・2020年9月7日、占領軍のガンボートは、真夜中過ぎに、アルスダニアの西にあるパレスチナの漁師に数回発砲しました。

・2020年9月9日、ガザ回廊北部の海で爆発の音が聞こえました。

・2020年9月9日、占領ブルドーザーは、ガザ市の東にあるシェジャイヤの国境障壁に隣接する農民の土地を破壊しました。

・2020年9月13日、占領軍のガンボートは、マシンガンを使用して、アルスダニア地域の西、6マイルの距離、午前1時にパレスチナの漁師を標的にしました。

・2020年9月22日、イスラエルの戦闘機は、ガザ回廊北部のベイトハヌーン交差点の東にある国境障壁近くの農民の土地に有毒な農薬を噴霧しました。

・2020年9月24日、占領軍のガンボートがパレスチナの漁師を追いかけ、午前8時にガザバレーの西にある6マイルの距離で彼らに発砲しました。

・2020年9月25日、カーンユニスの東にあるガザ国境障

壁の内側に駐留していたイスラエルの占領軍が、前述の障壁の反対側にあるクザアとアルカララの町の東にある農地に発砲しました。怪我は報告されていません。

・2020年9月26日、ガザ国境の障壁の内側、ラファ県の東、アルシュカタウンの東に駐留しているイスラエルの占領軍兵士が農地と羊飼いを撃ちました。怪我は報告されていません。

2020年9月28日、ジャバリアの西にあるアルスダニア地域の反対側の海に配置されたイスラエルのガンボートが、5～6海マイルの距離にあるパレスチナの漁船に発砲しました。

それらに向かって水を汲み上げることに加えて。これは3隻のボートの沈没につながり、それらに重大な損害を引き起こしました。怪我は報告されていません。

2020年9月29日、イスラエルのガンボートは、ガザ通り北部のベイトラヒアの町の北西にある海に駐留しました。ipは、約3航海マイル離れた場所にあるパレスチナの漁船を追いかけ、断続的に発砲し、逃げることを余儀なくされた漁師たちに恐怖とパニックを引き起こしました。怪我は報告されていません。

参考文献

・UAWCの農業委員会

パレスチナ人権センター <https://www.pchrgaza.org/en/>

今年のオリーブ収穫キャンペーンが終わる。



10月26日

今年は、コロナ禍で、私たちを含む、国際ボランティアの参加が困難な中でキャンペーンが行われた。

農業労働委員会連合 (UAWC) は、「援助は不動である」というスローガンの下で2週間にわたって実施された今年のオリーブ収穫キャンペーンを終了し、西岸10か所以上で250人以上のボランティアが参加しました。

キャンペーンには、オリーブの収穫に加えて、脅威にさらされている地域に苗木を植え、農民がそれらの地域で収穫するのに役立つ道具を配布することが含まれていました。今年のキャンペーンは、パレスチナの農民に損失をもたらした3月の農業シーズンの始まりと一致したパレスチナでのコロナウイルスの発生を考慮して、例外的な状況で行われました。閉鎖、不十分なマーケティング、および海外市場の閉鎖の結果は、占領とその慣行および入植者のためにすでに存在するパレスチナの農民の苦しみを悪化させ、オリーブの季節にエスカレートし、立ち上げの主張を必要としました農民が作物を収穫し、対象地域に苗木を植えるのを支援するキャンペーン。

農作業は、クスラ、プリン、ムガイヤー、ウリフ、マダマ、アシラアルキブリヤ、ジャルド、カリュット、ベイトドゥクク、パティール、スシャの各地域に焦点を当てたキャンペーンでした。年、そしてそれらの頻度はオリーブの収穫期の間が増加します。

農業労働委員会連合がオリーブの収穫期に毎年キャンペーンを開始し、入植者や占領軍による攻撃に対して最

も脆弱な西岸のさまざまな場所を対象としていることは注目に値します。

そして、毎年、国内および国際的な参加がありますが、コロナウイルスの発生の状況により、限られた地域の参加でキャンペーンを実施する必要がありました。

オリーブの会は、パレスチナ連帯の活動として、毎年オリーブ収穫キャンペーンに参加してきました。しかし、今年は、残念ながら、コロナ禍で動くことが出来ず、参加することができませんでした。

コロナ禍のもとでも、シオニストにおける農民や農地への攻撃と拡張が続けられています。

来年のオリーブ集客キャンペーンには参加していきたいと思えます。

文化-ダルウィシュの詩

Green flies (ヒロズキバエ)

その場面は相変わらずである。夏と汗、そして地平線を超えてみることができる想像力。

そして、今日は明日より良い。しかし、その死は新しいものだ。彼らは毎日生まれ、彼らが死の眠りにつこうとしたとき、夢を見ることがない眠りへの眠気を取り去る。かれらのだれもがだれからの助けをもとめない。声は開かれた国の言葉を探している。そして、こだまは、傷つき、明確に戻ってくる:「だれもここにはいない」しかし、「殺人者の本能を守る殺人者の権利がある」という誰かがいる。そのとき、その死は、まるで裏切るように「被害者は、叫ぶ権利を守る権利がある」と言う。礼拝者への呼びかけは、見分けのつかない葬儀によりそうために、高揚する。この棺桶は、空に急いで上がり、急いで埋葬された。一儀式を行う時間はない。より多くの死が他の襲撃で速いスピードで到着する。個人、または、グループ、または、孤児のいない、残されて悲しむ親のいない全家族、空は鉛の灰色で、海は青の灰色で、しかし、血の色は、ヒロズキバエの群れによって、カメラから隠される



少女 / 叫び

その海岸には、少女。 その少女には家族がある。

その家族には家がある その家には二つの窓と一つの扉がある。

海の中には、海岸を歩く人たちを捕まえて楽しむ軍艦が: 四つ、五つ、七つ

少女は砂の上に倒れる 少女はしばらくそのままだった。

何故ならかすんだ手

ある種の神の手が彼女を助ける そして、彼女は「父よ、父よ! お家に帰ろう。その海は、私たちのような人のためにない」と叫んだ。

彼女の父は答えない。彼の影に打ちのめされていた。

夕暮れの風上

ヤシの木の血、その雲の血

彼女の声は彼女を海岸よりさらに高く運ぶ

その大地に彼女は叫ぶ

そのこだまはこだませず

そのため彼女は、もはや速報ニュースでなくなった速報ニュースの中で、終わりのない叫びとなった。

いつ

航空機は2つの窓と一つの扉の家に爆撃をするために戻ってきた。



パレスチナの音楽の歴史

(1)

パレスチナ音楽—レバントの音と詩の力の融合

パレスチナ音楽はアラブ音楽、より具体的にはレバントの音楽の有機的な部分です。それにもかかわらず、パレスチナ人によって作曲された音楽には独特の特徴があります。一方で、それは音楽作曲の基礎としてパレスチナの民間伝承を使用しています。一方、19世紀後半からパレスチナに浸透してきたさまざまなジャンルのワールドミュージックを利用しています。最終的に、これは独特のパレスチナ音楽の多様性と音を生み出しました。

ナクバ以前の音楽

20世紀以前のパレスチナのミュージシャンに関する情報を含む、パレスチナの音楽に関する情報は非常に不足しています。これは、さらなる調査に値する期間です。20世紀前半のパレスチナ音楽については、エルサレムのミュージシャン、ワシフジャウハリエ (1897～1973年)の回想録のおかげで、オスマン帝国時代とその後の英国委任統治時代の洗練された現代音楽の生活について詳しく説明されています。パレスチナは明らかに、エジプトとレバントの間を移動するミュージシャンにとって重要な通路でした。彼らはエルサレム、ヤッファ、その他のパレスチナの都市でコンサートを開催し、それらの地域のミュージシャンに影響を与えました。

19世紀の終わりから20世紀の初めにかけて、いくつかの西部のキリスト教宣教師学校が設立されました。これらの学校は、パレスチナに西洋のクラシック音楽と記譜法を書く習慣をもたらし、パレスチナでの作曲の発展への道を開きました。フランシスコ会の僧侶たちは、パレスチナの子供たちや若者たちに教会での礼拝に出演する準備をするために最初に音楽を教えました。僧侶の下で最初に勉強したパレスチナ人の一人は、他のパレスチナ人ミュージシャンにクラシック西洋音楽を教えたオーガスティン・ラマ (1901-88) でした。ラマの最も有名な学生の中には、サルバドールアルニータ (1914-84) とユーセフカシヨ (1927-96) がいました。ラマは主に教会のために作曲しました。アルニータはイタリアで音楽を学びました。ナクバの前は、当時人気はかなり限られていたジャンルであるクラシック音楽の宣伝に尽力していました。

1936年に設立されたラジオエルサレムは、パレスチナの

英国委任統治領時代 (1920～48年) に音楽制作を促進する上で重要な役割を果たしました。ラジオ番組は、アラビア語、ヘブライ語、英語の3つの部門で放送されました。英国が所有するラジオはすぐに音楽制作のハブとなり、パレスチナや近隣のアラブ諸国からミュージシャンを魅了し、彼らは彼らの作品を放送または録音するようになりました。当時のほとんどのミュージシャンは記譜法を読んでいなかったため、音楽は口承の伝統を通して広まりました。教師兼作曲家のユスフ・バトルニは、西洋音楽の原理を学びましたが、アラブ音楽も作曲し、他のミュージシャンに西洋で行われているように記譜法の読み書きを教える仕事を任されました。この時期の他の著名なミュージシャンは、ラジオパレスチナのアラブ音楽部門を運営していた Yahya al-Libabidi (1900-41)、Rawhi al-Khammash (1923-98)、Mohamed Ghazi (1922-79)、Yahya al-Saudi (1905-65)、および Riad al-Bandak (1924-92)。これらのミュージシャンはすべて、伝統的なアラブの音楽ジャンルで作曲され、古典的なアラビアの詩と muwashshal または taqtuqa² に基づいて作曲されました。ラジオパレスチナは、草の根レベルでパレスチナのサークルで人気がありました。個人の家とは異なり、多くの公共の喫茶店にはラジオがあり、男性はそれが放送する音楽を聞くために集まった。

1、10世紀にアンダルスで生まれた音楽ジャンルで、古典アラビア語の有節歌に基づいており、ロンドのように音楽のリフレインに戻ります

2、口語アラビア語の軽い歌のジャンル
(続く)



ワシフ・ジャウハリエ

パレスチナの食べ物

クッベ Kibbeh

アラブ料理は手間のかかるものが多いのですが、一見、コロッケのように見えますが、コロッケとは全く違うものです。大きなものは、テニスボールくらいありますが、中はわざわざ空洞で、中が空洞になるように、形を作っていきます。そして、最後に中身を入れて蓋をして調理します。

材料

大粒のブルグル(クスクス) 500グラム

小粒のブルグル 500グラム

セモリナ粉 2~2.5カップ

卵 1個

水、必要に応じて

詰め物

ミンチ 1キロ

みじん切りの玉ねぎ 6、7個

塩

干しブドウ(好みで)

松の実(好みで)

辛みのあるパプリカまたはとうがらし(好みで)

ターメリック

作り方

1. 玉ねぎとミンチ肉をいっしょに炒める。この時、好みで香りづけのものをスプーン一杯加える。
2. ボウルに全てのブルグルを入れる。ブルグルを数セ



ンチ覆うようにお湯を満たす。ブルグルがお湯を吸収するまで約1時間を置く。

3. ブルグルをひと握りずつボウルから取り出し、余分な水分を絞る。絞ったブルグルはすべてを絞り終わるまで横に置いておく。残った水をボウルから捨て、絞ったブルグルをボウルに戻す。

4. セモリナ粉2カップ、ターメリック小さじ1、塩小さじ1、卵1個をボウルに入れ、チューインガムの固さの生地になるまでこねる。もし生地がべたつくようなら少しセモリナ粉を加える。

5. 生地は大きめのボール状に丸め、わきに置いておく。

6. ボール状の生地に口を開き、スプーン1杯の肉をいれ、開いた口はまた閉じる。

7. 鍋に塩少々とターメリック少々を入れてお湯を沸かす。お湯が沸騰したら詰め物をしたクッベを小皿サイズの平らな満月の形に整える。沸騰したお湯のなかにクッベのボールをそっと入れ浮いてくるまで茹でる。クッベが浮いてきたら、火が通り食べられるようになったしるし。

クッベは、料理したものをすぐに食べられるし、両面をあげてから食べることもできる。

絶対においしい!

守ろう!オリーブの木を カンパのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合(UAWC)に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会(オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名(店番): 〇九九店(099)
預金種目: 当座
口座番号0303500